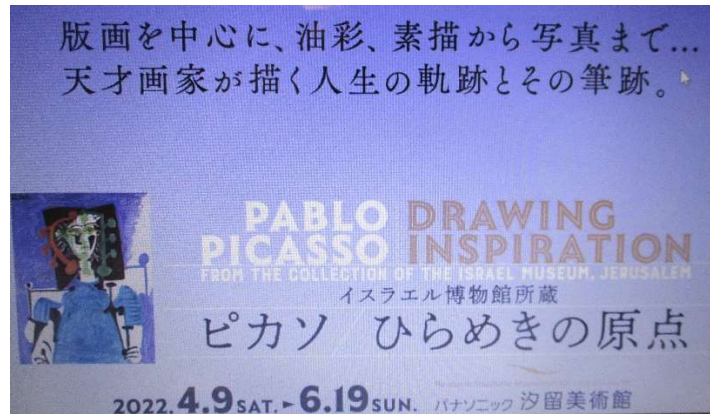


## イスラエル博物館所蔵 ピカソ ひらめきの原点

パナソニック汐留美術館 2022.04.09～06.19

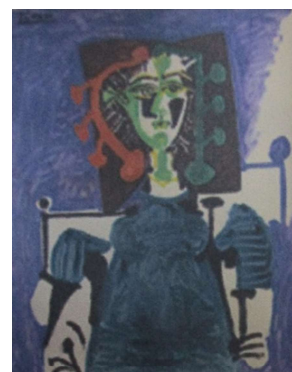
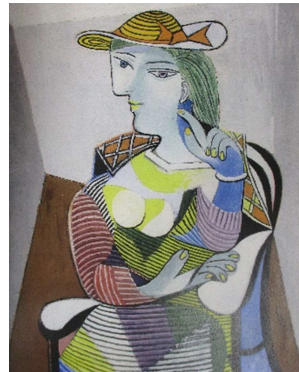
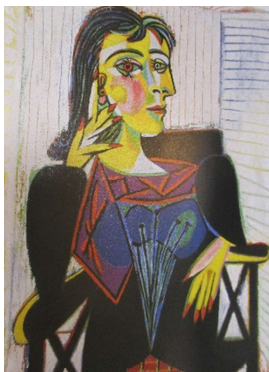
佐川美術館（近江・守山）07.02～09.04 長崎県美術館 11.11～23.01.09



「パブロ・ピカソ」(1881～1973)は、20世紀最大の画家の一人と誰もが認める、驚くべき創造力と革新性に溢れたその芸術は今なお魅了してやまない。

「イスラエル美術館」は、800点を超える「ピカソ・コレクション」で知られ、本展は画伯の最初期の1900年前後から亡くなる3年前の70年までの、充実した時期の版画、油彩画、ドローイング、写真の作品群が展示されている。

特に、「版画」が充実しており、「青の時代」の「美しき食事」や30年代の版画シリーズ「ヴォラール連作」など「ピカソ」の驚異的な技術が発揮できる作品が公開され、画風の移り変わりや技術的な実験の軌跡、そしてモチーフの変容が紹介されて、巨匠「ピカソ」のインスピレーションの源に迫る。



パブロ・ピカソ 《ドラ・マールの肖像》1937年 油彩/カンヴァス 左  
新恋人とされる大きな瞳、尖った鼻、ぴかぴかの爪、色っぽい口元を描いた「坐る女シリーズ」で、「マリー＝テレーズ」とは異なる華やかさがある。

パブロ・ピカソ 《マリー＝テレーズの肖像》 1937年 中

パブロ・ピカソ 《坐る女》 イスラエル博物館所蔵 1949年 右